

# 中山間地域に人々が集う 脱温暖化の「郷(さと)」づくり —「地元学」の導入とこれから—



2009年12月3日 藤山プロジェクト

## プロジェクトのスタート時(「やさか風土学」)・・・



石油が本格的に使われる前(約50年前)の暮らしぶり、農地、水路、生業などをうかがうため、集落全体の航空写真を見ながら、集落の方々の記憶をたどりつつ、お話をうかがった。

2009年2月13～15日

程原集落にて

しかし、その手法では  
「地域に根ざした」活動にはならなかった。

調査を「する側」と「される側」に分かれてしまう。

調査を「される側」は情報（記憶や記録）の提供をするのみ。相手をする負担感だけが残った。

住民意識は高まらず、調査を「する側」が得た情報を応用するには、再び住民との調整を進める必要がある。

何より、住民の普段の暮らしを出発点にしていなかった。

「やさか風土学」の挫折

「吉本地元学」を学び、体験することから、  
プロジェクトは出直した。

6月11～12日 熊本県水俣市訪問

6月21～23日 東松山市での地元学実践に参加

7月1～5日 弥栄にて自分達で実践

以降、地域の活動に参加し、信頼関係を築きながら調整

7月12～15日 小角集落地元学実践 (吉本先生・堀尾先生)

8月17～20日 小角集落地元学実践 (吉本先生・重藤さん)

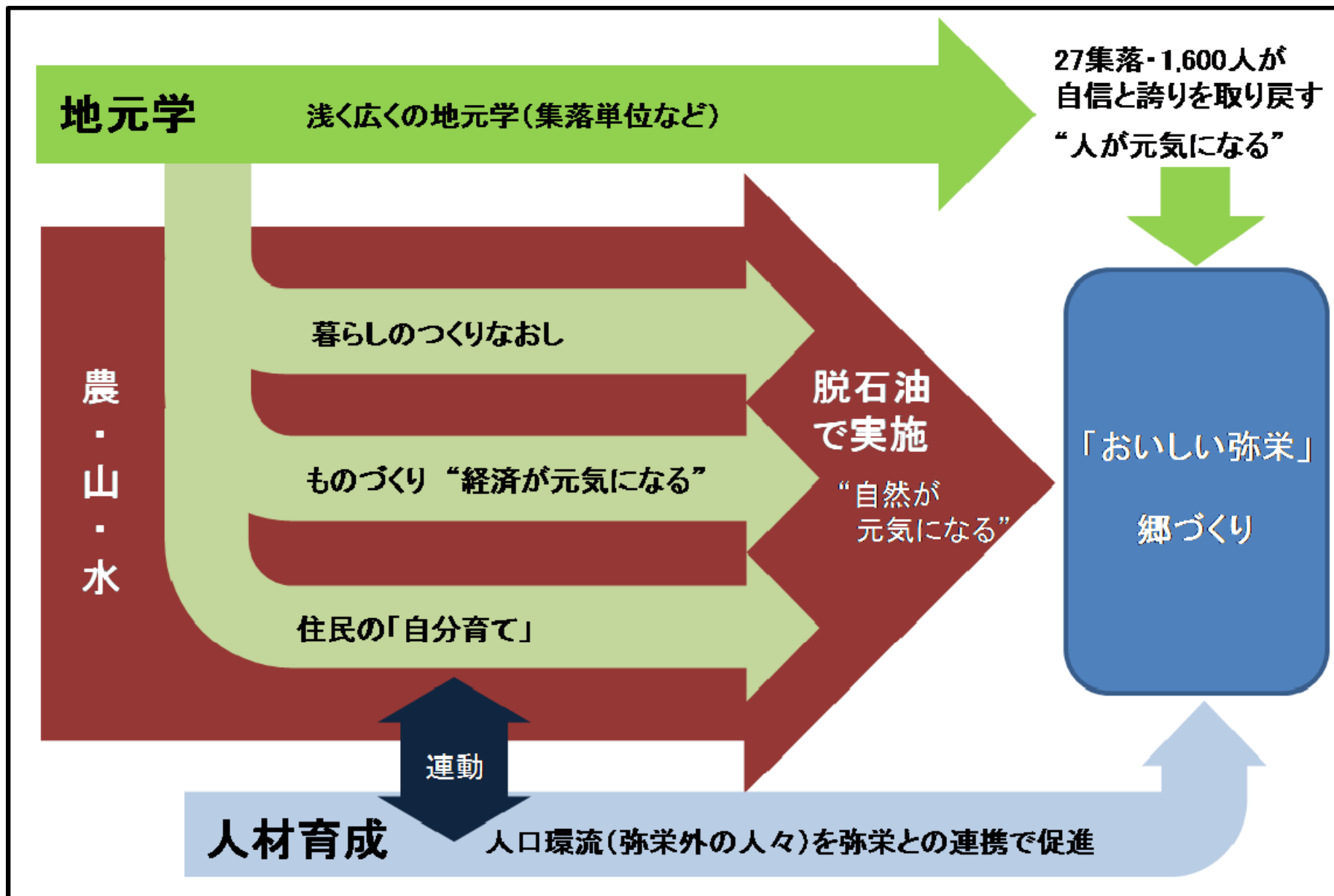
9月14～16日 野坂集落地元学実践

11月13日～15日 大坪集落地元学  
(吉本先生・堀尾先生・浅野さん)

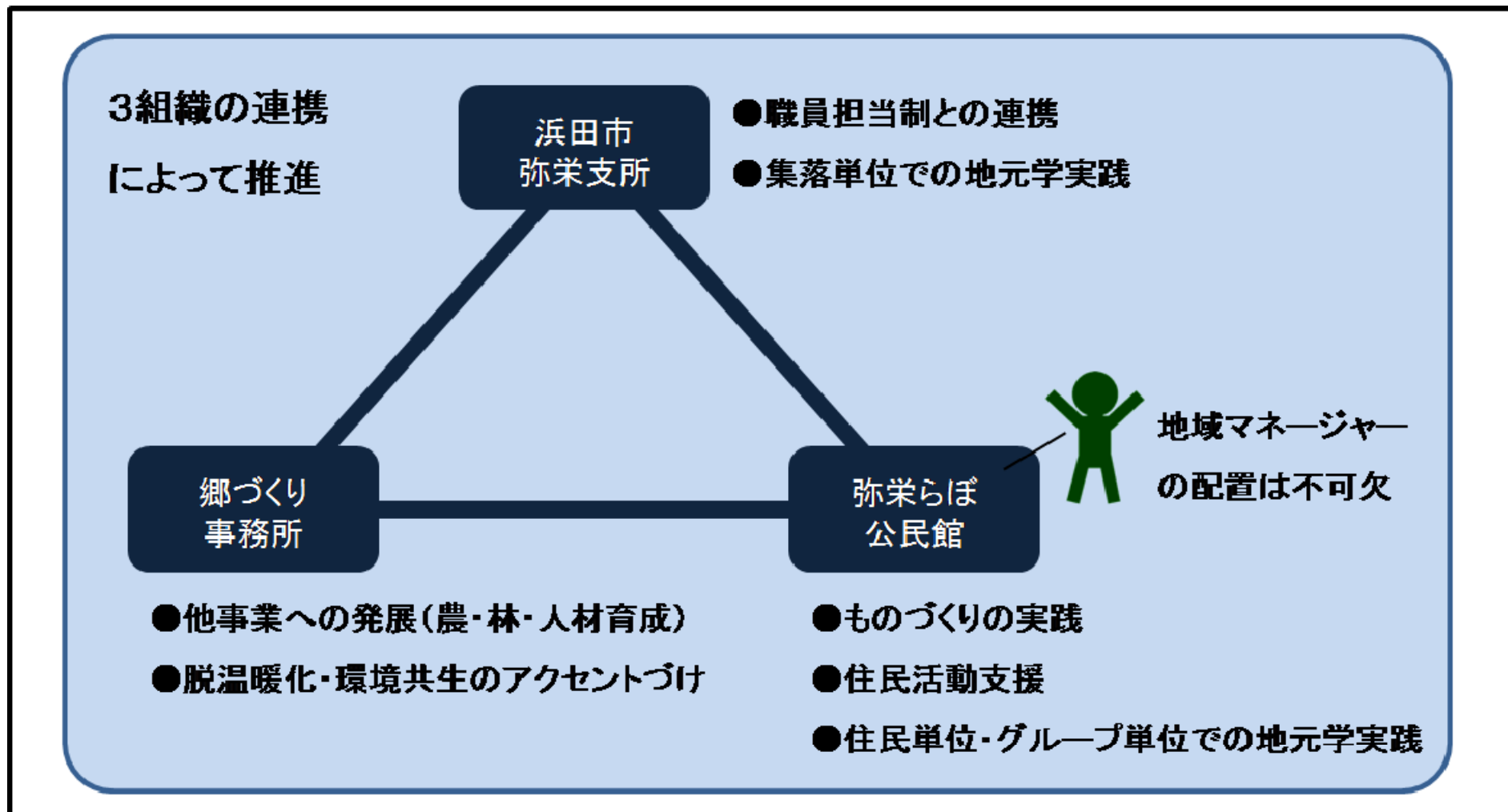
11月16～20日 鳥羽市での地元学実践に参加

# 地元学実践とプロジェクトとの関係

「人が元気になる・自然が元気になる・経済が元気になる」(by吉本先生)



# 体制



本プロジェクトの現地スタッフ、行政、住民団体が一緒になり、  
地元学実践や地元学で得られた「あるもの」(資源)の活用を進める。



「お母さん、これ何？」



うかがった話をもとに、絵地図を作成。



集落のみなさんに発表。



日々の暮らしを表現。



子どもも参加。遊びながら地元学。



子ども達の発表に大きな拍手。



集落のみなさんの顔が笑顔に。



一人で手がけている植物が116種類！



# 串崎文平さんの暮らしをつくる手

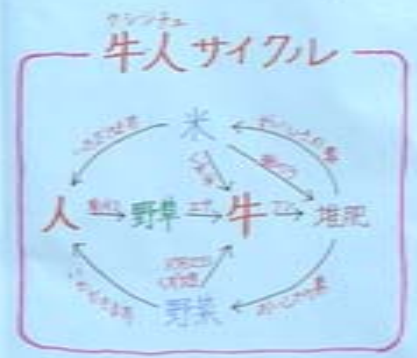
作成日 2009年9月15日  
 作成者 中谷美代恵 上野 晃  
 福島 万紀 有田 昭一郎

建物はみな自分で建てた  
 この家はほど離れた家と組んで建てたよ。それから、じいさん、親父、自分達で建て増してきた。小屋も牛舎も家に入る道も、そうやってできたよ。



## 牛と共に生きる

今は生産牛を3頭繁殖してるけど、昭和30年代までは「役牛」として、田おこしやしろかきに活躍してたよ。その頃は多くの家で牛を飼って、木部質にも牛の市場があった（診療所の通り）けど今じゃ牛を飼ってるのは、跡継ぎの4軒ほど。牛のエサは草刈りした草やくず米・くず大豆そしてトウモロコシだね。牛のフンはばがけした箱の箱ワラと混ぜて堆肥をつくるから、それがまた、おいしい米や野菜のもとになるよ。



## 庭のように畑をつくる

リンゴは平成5年に植えた。サクラはタバコ畑の跡にみんなて植えたよ。豊道沿いにはサツキが植えられ、色々な花木の間に雑草で耕されたような畑が広がる。



## 玄関をきれいに

おやじがきろんとせんといかんで、家の玄関は家の顔だからきろんとしとアんとと敷した。十国トンネルは跡継ぎの顔になるけ、きれいにせんといかんと思て草刈りしたり、木を植えたりしてたよ。

# 集会所 周辺でも水は生きて

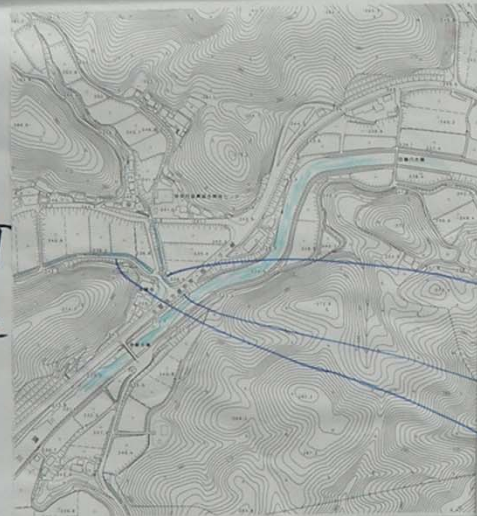
高さ2mぐらいの落差で 1kwぐらい いる!

三隅川



とれそうところか  
あちこちに。

小水力は  
世帯が分散  
している集会所  
周辺で、可能性  
大。



三隅川



2009.11.15  
堀尾正毅

# 山と火の繋がり

塚本孝え 土田拓 岡田 洋  
平成21年11月14日 (誕生日)

みそをぬった任をさしたおやつのストーブで焼いて待つ、美味しく来た



自然に出来たものが一番おもしろい。  
そして自然の火で食べるおもしろい。

渡川さんのお宅には五衛門風呂とくどがあった。



神球は生き火政の  
の高校から。

## ① おどろが肝心



新聞紙〜又故を使っ...

裏山から採る？

また枝も加え？



## ② 薪を入れたら



虫いのお木は  
「火がこたえんの上」

## ③ 火吹き竹で



吹いて...♡

吹いて...



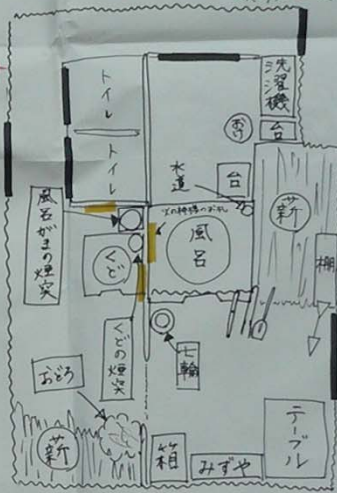
## ④ どんどん燃やす



「あの風呂はオキがまき  
たら冷めんのよ」  
オキは七輪にも  
おすせわけ。



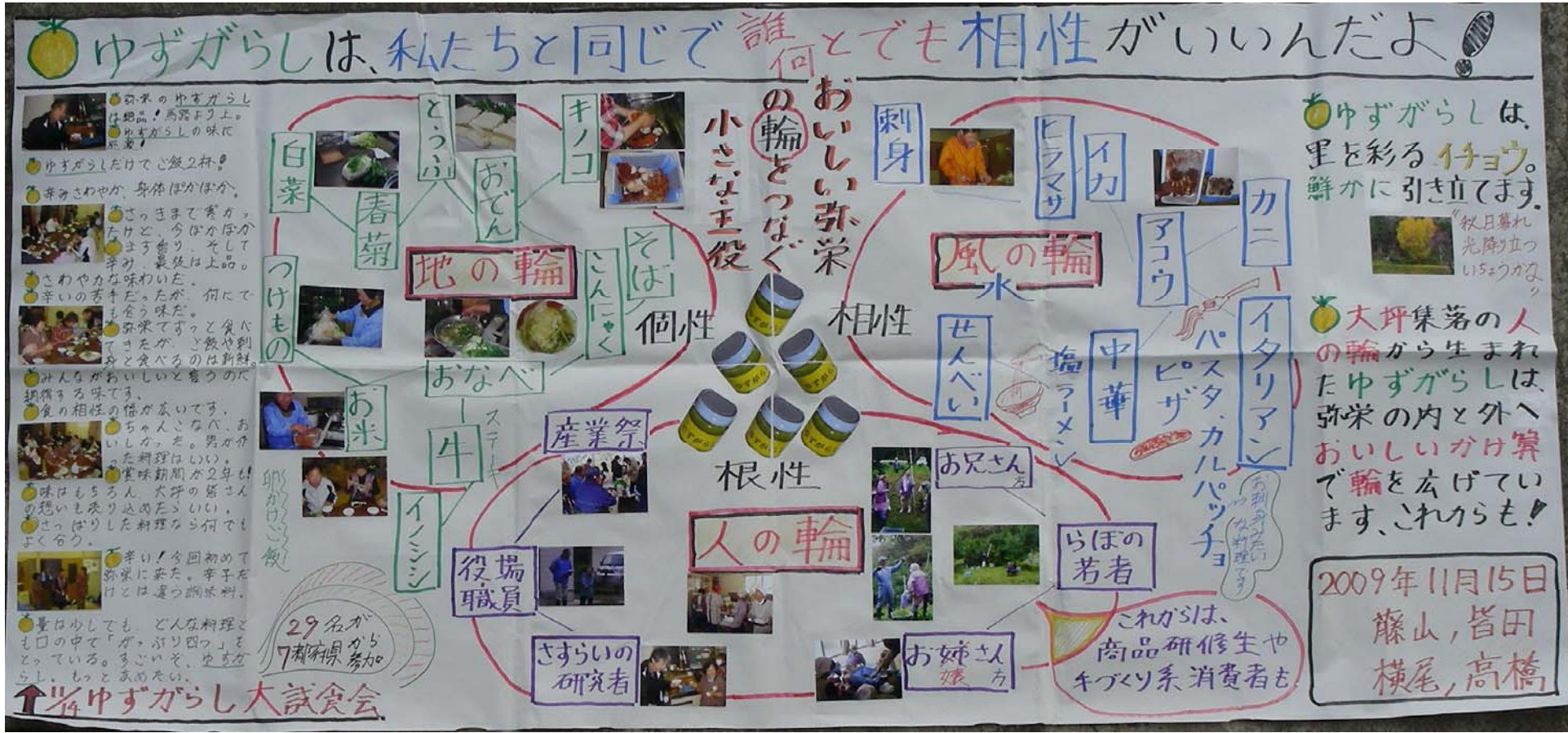
風呂がよの中で  
魚も焼ける。



## ⑤ 今で沸かした五衛門風のガワは ずっとあたたか

裏山の木を家の五衛門風呂やくどにつかって  
いる裏山がきれいだった。だから熊や猪もやっ来ない。

渡川さんは、家の裏の山。そして火  
を上手につかって暮らした。



大坪集落の隠れた逸品、「ゆずがらし」。  
食材をつなぐ、人をつなぐ、地域をつなぐ。

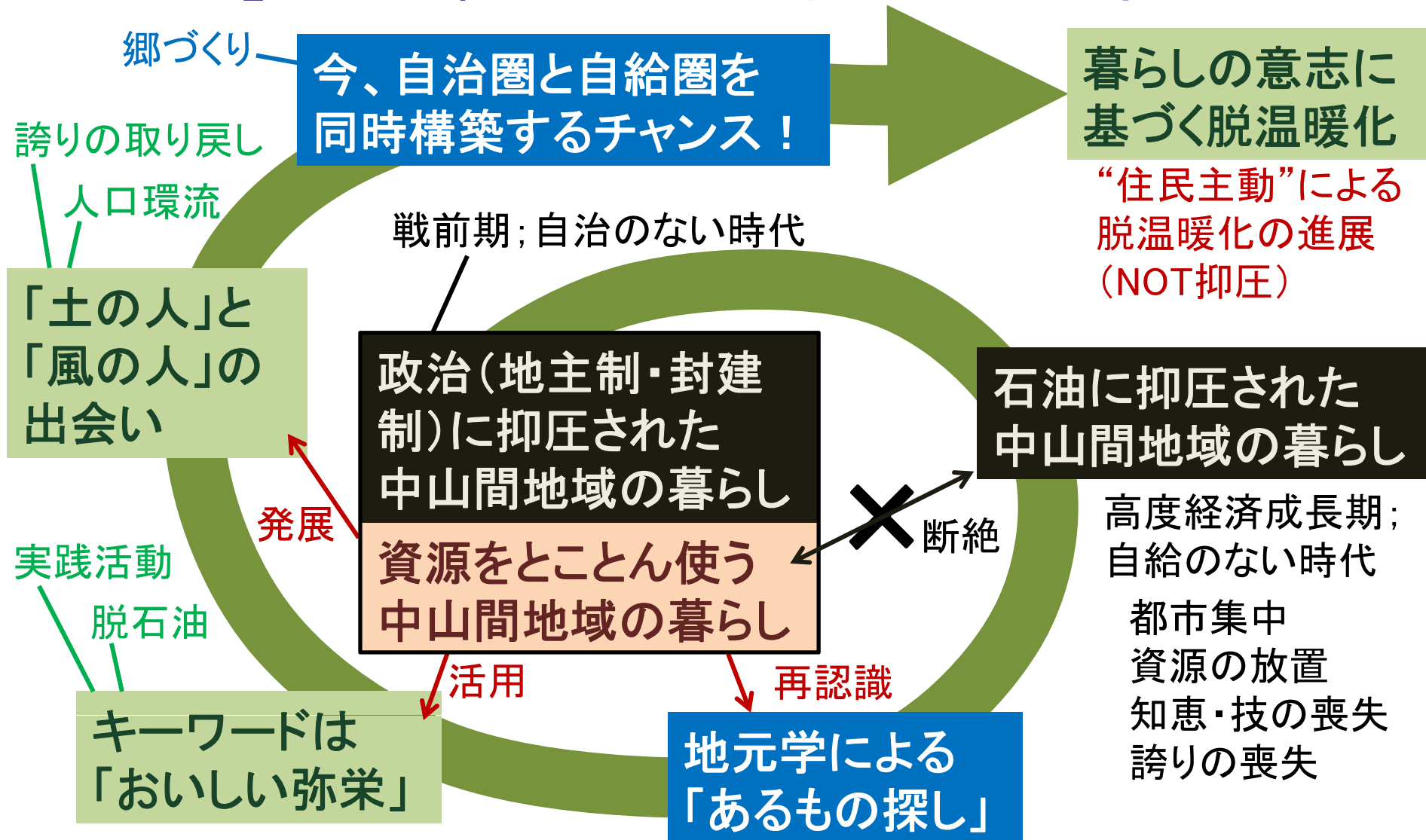


「ゆずがらし」で食べる。  
鍋をつくって食べる。



2009年11月14日  
大坪集落にて

# 上からの押しつけ(抑圧)ではない脱温暖化。 中山間地域の暮らしの延長線上にある脱温暖化。 「地元学」による暮らしの再確認と活用の模索。



「おいしい」を追求することによって、  
脱温暖化・環境共生社会の実現を  
楽しく・わかりやすく共感する。

おいしい弥栄

食品の加工・保存

薪や炭を活かした炊事・給湯

肥料自給・低投入型の農業

山の活用（木の実、山菜、竹）

廃棄物処理（残渣や屎尿の肥料化）

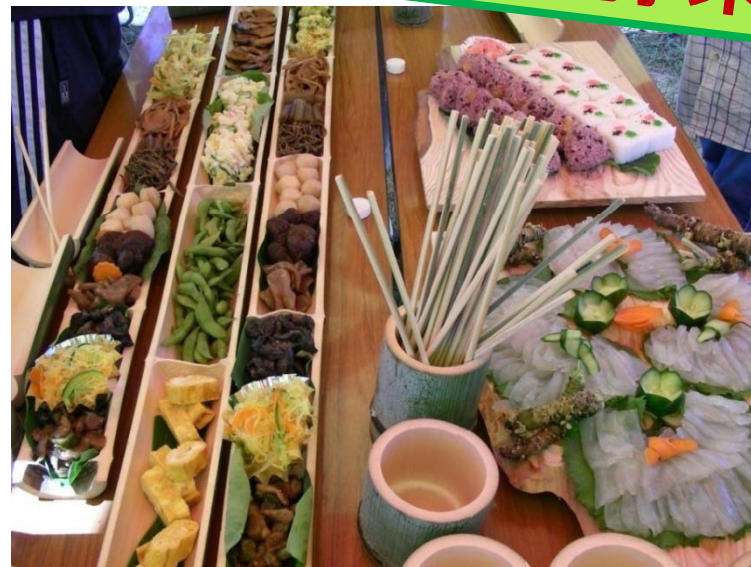
集まって食べる（「食の庭」「郷の駅」）

都市部との連携（「おいしい食料保険」「おいしい疎開保険」）



暮らしが資源（学習、交流、滞在） → 村丸ごと生活博物館

脱石油・環境共生型の生き方を明示 → 定住推進（人口環流）



# 「おいしい弥栄」が待っている





これから…

弥栄の27集落で地元学を展開(2009～2010年度)。  
住民を訪ねて気軽に話をし、一緒に活動を進め、  
「おいしい弥栄」を実現していく関係をつくる。

地元学に決まったやり方はありません。

弥栄流のやり方をみつけで、**責本哲郎氏**